平成 29 年度 第2回 屋代高等学校･附属中学校 学校評議員会 記録

日　時：　平成 29 年 12 月 13 日(水)　14:00～16:00

場　所：　本校会議室

出席者：　学校評議員 7 名

学校職員 11 名（学校長，教頭，副校長，高校・中学教務主任，キャリア教育係，生徒指導主任、広報入試係長，SSH 委員長，生徒会係主任，教務係）

司　会：　教頭

1　開会　（教頭）

2　校長挨拶　（学校長）

3　学校からの説明　各担当より本校の課題について

(1) 附属中学校の取り組み・コミュニティスクールについて　（副校長）

(2) キャリア教育（進路指導）センター試験に向けての取り組み　（キャリア教育係）

(3) 生徒指導全般について　（生徒指導係）

(4) 学校評価について「アンケートのまとめ」より考察　（教務主任）

(5) SSH の取り組みについて理数科課題研究等の取組みについて（成果）　（SSH 委員長）

4　主な質疑･提言

・（提案）コミュニティスクール運営委員会設置について、学校評議委員会を運営委員会にあてたい。

・（提言）市立中学でもすべての学校に運営員会を設置する方向で、従来の学校評議員会は廃止を検討中。それとは丁度逆の流れになる印象だが、現実的な対応として賛成。

・（提言）どういうやり方で進めるかコーディネートの仕方に無理があると不満も噴出する。現実的対応として賛成。以上の意見が出され提案了承。

・（提言）将来の夢の持ち方について、学年別の様子の違いを調べてみることもよい。塾の生徒を見ても中３では、ほとんど持てていないのが現状。コミュニティスクールなどを通してお手伝いができればと思う。

・（提言）夢があってもあえて表明しない子供も多いのではないか。無記名のアンケートをとってみても良いのでは。

・（質問）東大生とのディベート企画、そのテーマは子供たちの発案であるのか。

・⇒（回答）企画は東京大学の企画であり、普段からディベートを学んでいる中学 2 年生が東大生と対戦する形で実施した。テーマは千曲市に関する内容である。

・（提言）附属中で行われている様々な取り組みが、小学校にも伝わってくるような発信をお願いしたい。

・（質問）センター不出願生徒の内容は？

・⇒（回答）少数であるが出願しない生徒がいる。個人的な進路希望状況を説明。

・（提言）大学卒業後の希望や目的もあまりなく、偏差値だけをみて志望してくる学生もいる。どのような進路指導を高校では行っているか。目標がはっきりしていない生徒に対しては、大きなくくりで選抜し、二年次に選択して専門課程に入るようなシステムの大学を紹介するのも良い。

・（提言）私大の中には、昔の教養課程復活を志向し始めているところもある。明確な目標を持たない生徒が多数いる現実を、ただだめだと言っている訳にもいかない。

・（質問）キャリア教育（係）は、現在全国的に用いられている一般的な名称なのか。
・⇒ （回答）一般的には進路指導係、本校では大学進学のためだけではなく、自分の将来を見つめた進路指導を目指しており、名称をキャリア教育係としている。
・（提言）進路指導＝大学進学指導というのではなく、その先の将来的目標や展望をベースにした本校の進路指導のあり方に共感する。千曲市はコミュニティスクールの場を中心にキャリア教育を進めたいと考えているが、地域の小中と屋代高校のキャリア教育との一貫性が感じられ、大事な方向だと感じる。
・（提言）保護者の意見に耳を傾けることは重要だが、時に切り離して考えることも必要。
・（提言）大学生も、受動ではなく自発的な行動が、びっくりするほどとれない。子供の頃からの遊びのスタイルに問題がありそうだ。
・（提言）小学校の現場でも、子供が失敗しないような丁寧な指導を教員がしてしまう。失敗から学ぶということができにくい。それを許さない大人の環境がある気がする。困難を乗り越えられない生徒には、ハードルを取り払うのではなく、下げてやる工夫が必要。
・（質問）SSH は屋代中・高の特徴であり、魅力だと思うが、生徒の意識が比較的低いのはなぜか。
・⇒ （回答）教育課程上の主対象は理数科であるが、探究活動等において対象を全校生徒としている。フォーラム等内容が理数に偏るため、文系の内容の講演会を希望する声もある。
・（提言）大学入試制度の改変に伴い、英語教育の変化にどう取り組んでいるか。中高一貫制を生かしていくには中学からの取り組みが重要。
・（提言）少子化のため、親が子供の特徴を見極めにくい現状。従って、学校の情報が頼り。保護者を甘やかすことなく、意識改革を求めていく必要性。保護者と地域の連携といった視野も重要。
・（提言）仕事中心で親が子供から離れている現状。学校は子供に対する手厚い保護（けがをさせない、気持ちよく一日を過ごす）を求められる。子供を自立させるのとは反対の現状。木登りをしている子供に、「危ないからおりなさい。」ではなく、「お、やっているな。」と言える大人を増やしたい。そういった地域に育った子供たちが、高校に進めば、おのずと自立した生徒がふえる。
・（提言）本会議に向けた充実した資料の用意に感謝。
・（提言）かつては、将来の職業等具体的な目標を持って学校を選択したり勉学に励んだりする構造が多かったが、現在は、はっきりとした目標を持たない生徒も多いようだ。ただ、先の目標は無くとも、目の前の事柄をしっかりとやっていくという方法もありだろうと感じる。それが、最終的に確かな力にはなっていくのだから。
・（提言）親の根本的な不平不満は子供の成績についてだからだったらそれを上げてやれ、というのが塾のスタンス。
・（提言）いろいろな制約がある中で、単なる進学指導ではなくキャリア教育に力を入れている屋代高校のありかたに感謝。実際、信州大学工学部生の中には、屋代高出身で新たなクラブを創設するために一生懸命尽力している元気な生徒もいる。
・（提言）時代の要請に応えた英語教育の追求、時代の変化にもかかわらず自立心の養成を目指す教育のあり方等、良い部分を引き続き継続して欲しい。

5 閉会　学校長より（御礼）

先生方、貴重なご意見本当にありがとうございました。生徒にとって、試行錯誤、失敗は当たり前です。自己否定をしない、ポジティブな生き方を引き続き生徒には求めていきたいと思います。